

指導資料



鹿児島県総合教育センター

国語 第115号

- 小学校・特別支援学校対象 -

平成21年10月発行

読書活動や学習活動の充実を図る学校図書館の在り方

これまで学校図書館は、豊かな感性や情操をはぐくむ「読書センター」としての機能を前面に出してきたが、社会の急速な進展に伴い、情報化を視野に入れた、児童が自ら学ぶ「学習・情報センター」としての機能を加えることが求められるようになってきている。

新しい小学校学習指導要領では、教育課程実施上の配慮事項に「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実する」が継続して掲げられた。また、国語科では、読むことの領域で「目的に応じた読書に関する指導事項」が系統を踏まえて明記された。

今後、学校図書館を計画的に活用した教育活動の展開に一層努め、子どもたちの目的に応じた読書に関する力を育てていくことが求められている。

そこで本稿では、本県学校図書館の現状と課題を整理し、読書活動や学習活動の充実に資する学校図書館の在り方について述べる。

1 読書センターとしての機能の一層の充実

学校図書館は、読書センターとして、子どもたちの想像力を培い、学習に対する興味・関心等と呼び起こし、豊かな心をはぐ

くむ自由な読書活動や読書指導の場であればならない。そのためには、図書館に人がおり、資料が充実し、施設設備が整っていることが求められる。

平成21年4月に発表された文部科学省の調査では、本県の学校図書館の現状は次のような結果であった。

1 公立小学校における司書教諭発令状況及び学校図書館担当職員配置状況

学校数	司書教諭 12学級以上の学校 の学校 発令数 発令率		学校図書館担当職員		
	発令数	発令率	配置学校数	割合	全国平均
579	136	100%	451	77.9%	38.2%

2 公立小学校における学校図書館図書標準の達成状況

25%未満	25～50%未満	50～75%未満	75～100%未満	達成(100%以上)	標準達成 学校数/ 全学校数
2	15	87	230	245	42.3%

【平成20年度学校図書館の現状に関する調査】

本県では、12学級以上の全小学校に、司書教諭が配置されており、学校図書館担当職員も8割の小学校に配置されている。しかし、図書標準の達成状況は42.3%という割合で、十分とは言い難い現状がある。

そこで、次のような改善工夫をしていく必要があると考える。

(1) 魅力ある本を準備すること

子どもたちが読みたがる本と大人が読ませたい本は違う。両者をうまく調和させて、本当にいいと思う本と出会わせたい。

新刊書購入に当たっては、子どもたちからのリクエストを募る。

購入選書は担当者任せにせず、できるだけ多くの教職員で行う。

昔から読み継がれてきた図書は、配架や紹介を工夫し、手に取らせる。

紹介例：「先生、おすすめの本」

「お父さんお母さんが読んだ本」

子どもたちの読書情報を交流させ、読書意欲を喚起する。

例：読書郵便，紹介文，本の帯づくり，
広告カード，読書感想画，推薦文

(2) 本の魅力を語れる人，出会いを演出できる人をできるだけ学校図書館におくこと

学校では，図書館の担当者だけでなく，教職員だれもが子どもと本の出会いをつくるように心掛ける。そのためにはどのような本を，いつ，どのように紹介できるか，日ごろから学校図書館に足を運んで本の情報をキャッチしておく必要がある。

また，親子読書会の保護者や公共図書館職員などを招いて，子どもたちと本を会わせる場や時間を設定するのもよいアイデアである。

(3) 魅力的な図書館空間を創ること

図書館の担当者が中心となって，子どもたちがリラックスした精神状態で読書を楽しめる空間を創る努力も大事である。

- ・ 整然として清潔感のある空間
- ・ 鉢物などを置き，潤いのある空間
- ・ 季節を感じさせる掲示や展示
- ・ 子どもたちの読書活動を刺激する掲示物，展示物
- ・ 本を手に取りたくなるような配架

(4) 読書の質を高める働きかけをすること

平成20年3月に閣議決定された「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」では、「言語力の育成に資する読書活動を推進すること」が求められている。今後はこのような視点も大事にして，読書センター機能の充実を一層図る必要がある。

近年，読み聞かせが盛んになり読書好きの子どもは増えている。しかし，挿絵の多い読みやすい本は手にとるが，少し読みごたえのある本には向かおうとせず，学年が進むにつれて読書から遠ざかる子どもがいる。学校では，子どもたちの発達の段階に応じて，適切な本へ誘い，読書の質を高め，読む力を育てることが大事である。各教科・領域等と関連した必読図書リストを作成して，学校図書館を活用した学習活動と家庭での日常的な読書の関連を図り，課題読書に取り組みさせることが大事である。

この本はぜひ読もう (6年生)

教科	単元・教材	書名	著者名	出版社	読後	採択	
1	【2月】	船の手は語りつづ	『船の手は語りつづ』 藤原 信天	あまなる書房	○	○	
2	本は友達 【7月】	グリックの冒険	高杉 伸一	西成書店	○	○	
3		トムは真夜中の庭で	高杉 伸一	西成書店	○	○	
4		西の魔女が死んだ	加木 喜夢	小学館	○	○	
5	国語	霧のむこうのふしぎな町 (新装版)	柏葉 幸子	講談社	○	○	
6	この学期は7月に学習します。その中でまじりに読んでもめましよう!	五つのエッセーをさがせ!	水城 浩	大日本図書	○	○	
7	少年少女フューチャー歴史小説 (1)	少年少女フューチャー歴史小説 (1)	西川 博	講談社	○	○	
8		宇宙社会連立書集 銀河アトム (1)	宇野浩二	講談社	○	○	
9		イーモールと原稿たち	『イーモール』 杉田香代子	西成書店	○	○	
10	本に親しみ、自分と向きよう 【4月】 『あーうい』	エイジ	重松 清	講談社	○	○	
11	国語	実感を頼んで自分の考えをもちよう 【読者のための】 【5月】	いのちってなんだろう	中村 稔子	保成出版社	○	○
12	読書の世界を探めよう 【7月】	アラスカにんげん記 アラスカ光の滝	笠野 路夫	新編社	○	○	
13	本は友達 【7月】	赤毛のアン 雲の舟 (ゲド城記1) 五月のはじめ、日曜日の朝 白旗の少女 注文の多い料理店	『赤毛のアン』 露西・モディグ 『雲の舟』 石井 隆策 『五月のはじめ、日曜日の朝』 比嘉 賢子 『白旗の少女』 宮沢 賢子 『注文の多い料理店』 宮沢 賢子	講談社 西成書店 講談社 西成書店	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	

教科・領域等と関連した必読図書リスト例

2 学習・情報センターとしての機能の充実

鹿児島県学校図書館協議会が毎年行う「学校図書館及び読書指導に関する実態調査」をもとに、学習・情報センターとしての学校図書館の現状と課題を整理すると次のようになる。

(現状)

図書館利用に際し、担任と図書館担当者間の連絡連携が不足している。

学習に対応した資料が不足している。

図書購入費が十分でない。

資料活用能力の育成が不十分である。

年次ごとにコンピュータ導入が推進されている。

(課題)

本県では、図書館担当者の配置も複数校に一人という市町村が多い。今いるスタッフで、子どもたちの学習をサポートするには、担任と図書館担当者の連絡連携が不可欠であり工夫が必要である。

限られた予算の中で、学習に役立つ最新の資料を準備するために、意図的・計画的な図書購入や近隣の学校や公共図書館との連携が求められる。

調べ学習に活用できる地域資料の収集を工夫する必要がある。

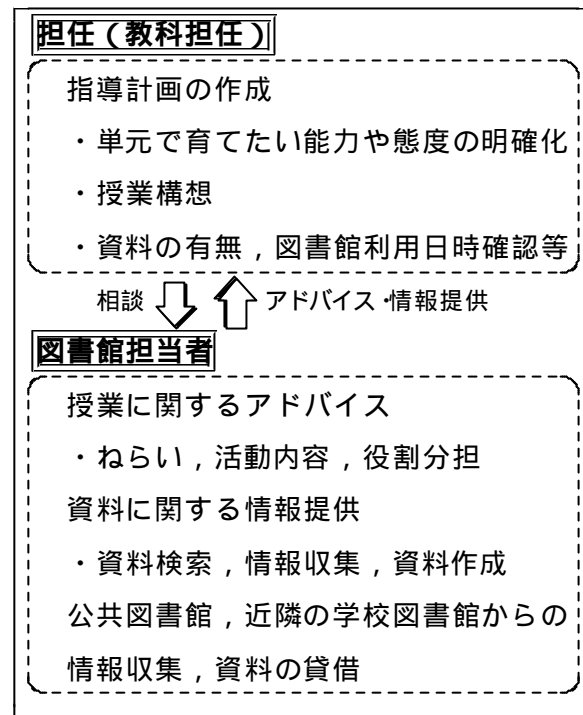
電算化による図書検索やインターネットでの情報収集・検索などを今後も積極的に進めていく必要がある。

こうした現状と課題を踏まえ、学習・情報センターとしての機能の充実をどのように図ればよいだろうか。

「連携の在り方」「資料の収集・活用」「施設・設備・環境」の3点について、具

体的な方策を紹介する。

- (1) 担任(教科担任)と図書館担当者の連携授業を行うに当たっては、事前に次のような内容で打ち合わせを行い、学習がスムーズにいこう連携を図りたい。



また、図書館利用に当たっては、どのような情報活用能力を育てたいかを明確にして指導に当たる必要がある。

	図書館や情報メディアの利用	メディア・資料の使い方	情報の活用・検索の仕方	情報のまとめ方
低学年	図書の扱い方 学校図書館の利用 図書館のきまり	ラベルと配置 絵本, 科学読み物, 図鑑等の図書資料 掲示, 展示資料	情報を集める メディアの活用 記録の取り方 抜き書き	情報の整理 感想の書き方 絵や文章のまとめ方
中学年	学校図書館の利用 情報メディアの種類・特性 情報・メディアの利用法	公共図書館 図鑑, 事典の利用 記録文, 報告文	情報を集める 索引の利用 記録の取り方 ・ファイル ・要点のまとめ方 ・表や図の作り方	情報の取捨選択 要約 引用 OHP, OHC を使った発表
高学年	情報メディアの種類・特性 ・図書, 新聞, 雑誌, 視聴覚メディア 情報・メディアの利用法 ・ネットワークの使い方	学校図書館の利用 ・分類の仕組みと配置 ・請求記号と配架 コンピュータ目録 ・レファレンスサービス	情報を集める 新聞の活用 記録の取り方 ・ファイル ・要点のまとめ方 ・表や図の作り方 ・コンピュータでの記録の取り方	情報の取捨選択 比べ読み 意見や解説の文章などの利用 資料リストの作成 コンピュータを使った発表

(平成16年4月全国学校図書館協議会作成の体系表をもとに作成)

(2) 資料の収集・活用

調べ学習に利用する資料は、次のような手順で計画的な購入や収集を行い、学習に対応できる質と量を確保し、活用が図られるよう準備しておく必要がある。

ア 図書館担当者は、教育課程をもとに、学年や月ごとに学習テーマを洗い出し、必要な図書資料のリストを作成し、蔵書を確認する。

資料リスト例

()年生()月					
テーマ	書名(シリーズ・巻)	分類	出版	出版社	備考
1					
2					
3					
4					

イ 所蔵していない図書資料については、近隣の学校図書館や公共図書館へ問い合わせ、可能であれば貸出を受ける。

ウ 新規に購入する図書は、教職員へ購入希望をとり、複数の職員で検討を行い、購入計画を立てる。

エ 郷土資料等は、日ごろから教職員で、資料収集を心掛け、ファイリングすることで利用に供する。

様々な資料

専門書、新聞・雑誌(写真、広報誌、絵、パンフレット、広告)写真集、写真絵本、実物、音声・映像放送メディア、報告書、調査物、記録、テーマごとに利用可能なホームページ一覧など

(3) 施設・設備・環境

子どもたちが学校図書館を利用して、主体的、意欲的に学習活動を進めるには、施設・設備・環境面でも工夫が必要である。教職員でアイデアを出し合って、学習・情報センターとしての学校図書館づくりを進める必要がある。

ア 調べ学習コーナーの設置

- ・ 授業に使う図書資料の展示
- ・ 前年度の作品の掲示 等

イ 調べ学習に生かせる快適なスペースの創出

- ・ 本の配置、机の並べ方
- ・ 作業台・仕切りの設置

ウ 図書情報のデータベース化

エ 情報機器の導入

- ・ 校内外に接続できるコンピュータ

これからの変化の激しい社会を、自らの責任で主体的に判断し自立して生きていくために、子どもの時期から本を読む習慣、本を通じて物事を調べる習慣を確立し、必要な情報を収集し、取捨選択する能力を育てていくことが求められている。そのためには、それぞれの学校において、学校図書館の重要性を再確認し、子どもたちが主体的に学習活動を展開しながら、自分なりに関連する知識を得ていく創造的な自学自習の場としての学校図書館づくりを進めてほしい。

【引用・参考文献】

- 『小学校学習指導要領解説 国語編』平成20年6月 文部科学省
- 『鹿児島県子ども読書活動推進計画』(改訂版)平成21年3月 鹿児島県教育委員会
- 『調べ学習ガイド』平成19年3月 鹿児島県図書館協会
- 『がっこう図書館』(16～20年度)鹿児島県学校図書館協議会
- 『「読解力」を伸ばす読書活動』平成18年 井上一郎著

明治図書

(企画課)